

[研究資料他]

国際協力機構青年研修 母子保健実施管理コースの評価 3年間の研修を踏まえて

The Evaluation of the Training Program of Maternal and Child Management Course for Young Leaders —Stand on Three Years Experience—

三田 禮造¹⁾ 櫻庭 肇²⁾ 野呂 香織²⁾ 小野 修司³⁾ 藤原 真吾³⁾
Reizo MITA¹⁾ Hajime SAKURABA²⁾ Kaori NORO²⁾ Shuji ONO³⁾ Singo Fujiwara³⁾

¹⁾ 青森中央短期大学看護学科 ²⁾ 青森田中学園 ³⁾ 独立行政法人国際協力機構東北支部

¹⁾ Aomori Chuo Junior College ²⁾ Aomori Tanaka Educational Academy

³⁾ Japan International Cooperation Agency, Tohoku Branch

Key Words : 国際協力、母子保健研修、評価

要 旨

青森中央短期大学は国際協力機構が実施した「母子保健実施管理コース」に協力し、3年間研修を青森県内各種施設の協力を得て実施した。

初年度の平成22年度はフィリピン共和国16名、平成23年度は旧ソ連圏4ヶ国16名、平成24年度はパキスタン・イスラム共和国9名の研修生総計41名を受け入れた。

カリキュラムは医療機関職員のみならず地域医療に関わる行政官、NGOの職員をも対象として作成した。実際の研修員は旧ソ連圏4ヶ国からは医師のみであったためカリキュラム内容に技術習得が欠けている等の一部不満が聞かれた。参加研修員募集要項には広く医療に係る職種と明記してあるにも関わらず現地における人選で、募集趣旨が十分に理解されておらず問題を残すことになった。

研修生からの評価は概ね良好であり、保健師活動、母子手帳作成、助産師教育、保健組織の構築等地域における今後の活動に有効に生かしていきたいとの研修報告を得た。

1. 緒 言

青森中央短期大学は3年間にわたり国際協力機構（以下 JICA）に協力し、青年研修事業母子保健実施管理コースの研修事業を実施し、初年度はフィリピン共和国、2年度は旧ソ連圏4カ国（アルメニア、キルギス、タジキスタン、ウズベキスタン：国名は通称）、3年度はパキスタン・イスラム共和国からの研修員を受け入れました。この3年間の研修その成果及び研修員による評価をまとめ報告する。

2. 研修実施の背景

JICAは「青年研修事業は、開発途上国の将来を担う青年層（20歳～35歳程度）を日本に招き、それぞれの国における開発課題（行政、教育、農業、社会福祉、経済、保健医療、環境及び情報通信など多岐にわたる専門分野）について日本の経験、技術の基礎的理解を付与する研修を行い、将来の国づくりを担う人材の育成に協力する事業です」として青年研修事業を実施している。青森中央短期大学は保健医療分野でこの事業に協力し、「母子保健実施管理コース」の研修を3年間にわたり実施してきた。

3年間の研修員の受け入れは、フィリピン共和国、旧ソ連圏4カ国（アルメニア、キルギス、タジキスタン、ウズベキスタン）及びパキスタン・イスラム共和国から、総計41名である。

これらの国々はUNICEFの統計分析では開発途上国/地域²⁾に分類されており、主な母子保健の指標を示したものが表1である。

3. 研修の概要と研修プログラム（表2）

本研修は母子保健に関わる人材に対し広くその管理機構・運営を研修する機会を設けることを目的としており、特定の職種に対する専門的技術研修を想定したものではない。

保健行政、特に母子保健に関わる行政官や保健師・医師・助産師・看護師、医療職養成に関わる教育職、地域の母子保健分野で活動する民間機関の職員等を対象にした研修プログラムを設定した。主な研修項目は

- ・本邦の医療保険制度の説明、看護師・助産師・保健師の養成制度の解説
- ・保健師活動の解説
- ・地方自治体における母子保健の現状及び母子保健対策の解説
- ・保健指導現場の視察
- ・看護師・助産師・保健師養成施設の視察、教員学生との交流
- ・各種医療機関の視察（生殖医療を含む）
- ・保育園、幼稚園、特別養護老人施設の視察

である。尚、前年度の評価会における要望事項を次年度の研修に生かすよう、研修計画に組み入れるよう工夫した。又、参加研修員の要請に応え視察研修先を追加した（平成23年度、国立病院機構 青森病院）。

4. 研修実施

研修実施に当たっては研修員派遣国の母子保健に関する情報は東北JICAよりの提供資料及びUNICEF・WHO年次統計報告、厚生労働省一海外で健康に過ごすため、外務省在外公館医務官情報等から検索入手した。但し、何れも断片的情報であり研修計画作成のためには十分な資料とはなり得なかった。

青森中央短期大学の教員及び田中学園関連施設（本学園関連施設）のみでは研修を十分に実施しし得ないこと考え、学外の機関、施設にも協力を依頼した。

研修に協力を得た講師及び施設は

本学園関連施設

浦町保育園、中央文化保育園、第一幼稚園、特別養護老人ホーム三思園：施設視察

南雲 裕美 助手住宅：幼児・乳児の居る家庭訪問

本学園関連以外に協力を得た組織・施設

青森県健康福祉部こどもみらい課：「青森県の母子保健施策」の説明

青森市元気プラザ：「青森市の保健事業とその実態」事業の説明と母子健診の実施見学

あおもり協立病院：地域における私的病院の母子保健の活動視察。

弘前大学医学部附属病院 周産母子センター：周産母子センターの役割の説明、施設視察

国立病院機構 青森病院：障害児医療の視察

西北中央病院：地域における公的医療機関の母子保健の実態の説明、病院視察、電子カルテの実習

立崎レディースクリニック：生殖医療施設の視察

弘前大学大学院保健学研究科：母子保健、助産師教育現場視察及び大学院生との交流

講師

青森看護協会：看護協会の役割・活動の解説

溝江 好恵 氏：助産院における妊産婦管理の説明

トルストクーツヴァ オリガ 氏：外国人の経験した日本の出産・育児・子育て経験談

千葉 敦子 氏：勤労婦人の育児経験談

実施年度により研修内容、施設視察は異なったが、青森市元気プラザ、あおもり協立病院、弘前大学は3年間続けての協力を得た。

5. 研修内容に対する研修員による評価

年度により参加研修員の構成が異なり研修内容に対する評価は異なった。平成23年度旧ソ連圏からの研修員全員が医師であり、研修項目が保健師、助産師及び行政に関わる職員を考慮して作成されたものであったため、この点に対する不満が聞かれた³⁾。しかし一方医師のみであったことから病院視察では医師との意見の交流や、最新の医療機器への対応等専門的内容で話し合いが出来た事が利点として評価を得た。

(1) 研修内容に対しては研修員の職種によって其々評価が分かれたが、有益であったとされた研修項目

講義

青森県の母子保健施策

青森市元気プラザにおける青森市の母子保健活動

弘前大学医学部附属病院周産母子センターにおける青森県の母子保健の現状

あおもり協立、西北中央病院の母子保健の現状

日本の医療保険制度

保健師活動の歩み

視察

あおり協立病院 分娩室、医療器具

西北中央病院 特に電子カルテ実際、災害発生時の対応

弘前大学医学部附属病院周産母子センター及び産婦人科外来・病棟 医療機器

弘前大学保健学科母子保健 母子保健教育、教育機材

幼稚園、保育園、特別養護老人ホーム

(2) 研修項目として追加要望のあった事項

日本の保健行政の組織

病院における管理機構、人事管理、管理者の職種

育児期間中の家庭訪問

(パキスタン研修員は家庭訪問し、働く婦人の育児の現状を見学した)

専門技術の習得

実践的内容、技術の習得

臨床現場の医師による技術指導 特に医師から要望

最新医療機器の研修

(実施管理を目的とする研修であり又短期間でもあり、医療技術の研修は実施計画案には含まれていない)

日本の文化を理解する機会の設定

(3) 研修員にとって、帰国後業務に生かしたいと考えられた研修内容

住民に対する予防活動の重要性の認識

健康相談、健康教育等の強化

保健師・助産師制度の確立、教育レベルの向上

(国により、助産師・保健師制度が確立していない)

妊婦・乳幼児健診の充実

妊娠早期からの妊婦健診の実施

妊産婦・乳幼児死亡率減少への取り組み

母子手帳の導入

母子保健に関する行政組織の強化

行政組織、医療機関との連携の在り方

医療機関の充実強化

老人ホームの導入

(国により老人介護に対する考え方に大きな違いがあった。パキスタンからの研修員は老人を施設に預ける状況が理解出来ず、日本の制度に疑問を呈していた。

他方、高齢者問題に向けて我が国の制度が参考になると言う意見も聞かれた。)

6. 研修実施の成果と改善すべき問題点

(1) 研修計画の策定

研修計画は母子保健に係る多職種（看護師、助産師、保健師、医師、栄養士、健康指導に係る職種、行政官等）を対象として作成した。研修内容は母子保健活動の実施に際し管理運営をどのように進めていくか日本における事例から学ぶことを基本とした。

研修員の募集にあたり、実施協力機関として作成提示した研修計画内容を十分に理解せず応募したと考えられる研修員もあり、研修員募集にあたり研修趣旨の徹底の確認が必要である等認識させられた。

研修計画を作成するに当たり、相手国の母子保健の現状が十分に把握出来ず、研修員の期待する研修内容を提供し得なかった点に、研修受け入れ組織として適切な対応が取り得ない課題を残した。

更に、国々の保険制度や社会保障の制度の違い、文化的背景を配慮した上で、我が国の組織や制度を紹介、理解を得ることへの難しさを実感させられた。

（２）研修成果

研修員を受け入れた立場では、職種として保健師（public health nurse または community health nurse）制度の存在しない国、助産師教育のレベルが低い国等、日本人として考えると組織・制度が不十分な国々が存在している事実を改めて認識する機会となり貴重な経験であった。

参加研修員からは、我が国における保健師の活動や、その成果に高い評価が得られ、研修結果を基に、帰国後制度として導入の推進を考えるとの発言もあり、研修が有意義であった事を認識出来た。

又、母子健康手帳には多くの研修員が有用性に関心を示していた。母子健康手帳を使用している国は世界的にも少なく、JICA の支援によりアジアの国々では普及がなされている。

参加研修員の国々では母子保健の問題は、解決すべき多くの問題を抱えており、母子保健に係る制度の強化、人材の養成等で、我が国のこれまでの努力から多くを学び、帰国後の母子保健管理の実施に向けて参考にしたいとの意見が聞かれ、この研修制度が評価されたものとする。

7. まとめ

国際協力機構東北支部の実施する青年研修「母子保健実施管理コース」に青森中央短期大学が協力し、研修員を受け入れた経験の成果を評価し、海外からの研修員受け入れの問題点を整理した。

3年間の研修に協力を頂いた関係者の皆様方に深謝致します。

参考文献

- 1) 公告 独立行政法人国際協力機構東北支部（JICA 東北）が、平成24年度に公益法人、NGO、NPO、大学等との研修委託契約により実施する予定の青年研修事業案件について
- 2) UNICEF. Regional Classification. The state of the world' s children 2012; 124.
- 3) 三田禮造、桜庭 肇、野呂香織、小野修司、藤原真吾. 国際協力機構青年研修（アルメニア、キルギス、タジキスタン、ウズベキスタン） 母子保健実施管理コースの評価. 青森中央短期大学研究紀要 2012 ; 25 : 77-83.

表1 Comparison of health indicators

	Life expectancy at birth (years)			Neonatal mortality rate (per 1000 live births)	Infant mortality rate (1000 live births)			Under- 5 mortality rate (1000 live births)		
	M	F	Both	Both	M	F	Both	M	F	Both
	2008 ¹⁾			2008 ¹⁾	2008 ¹⁾			2008 ¹⁾		
Philippines	67	74	70	15	30	22	26	38	27	32
Japan	79	86	83	1	3	2	3	4	3	3
	2009 ²⁾			2009 ²⁾	2009 ²⁾			2009 ²⁾		
Armenia	66	74	70	13	21	18	20	24	19	22
Kyrgyzstan	63	70	66	17	35	29	32	39	34	37
Tajikistan	66	69	68	24	60	43	52	71	51	61
Uzbekistan	66	71	69	17	34	30	32	38	36	36
Japan	80	86	83	1	3	2	2	4	3	3
	2009 ³⁾			2009 ³⁾	2009 ³⁾			2009 ³⁾		
Pakistan	63	63	64	41	70			87		
Japan	80	86	83	1	2			3		

1) WORLD HEALTH STATISTICS 2010

2) WORLD HEALTH STATISTICS 2011

3) WORLD HEALTH STATISTICS 2012

	Maternal mortality ratio † (adjusted)	Total fertility rate
		2005 ¹⁾
Philippines	230	3.1
Japan	6	1.3
	2008 ²⁾	2009 ²⁾
Armenia	29	1.7
Kyrgyzstan	81	2.3
Tajikistan	64	3.4
Uzbekistan	30	2.2
Japan	8	1.3
	2008 ³⁾	2010 ³⁾
Pakistan	260	3.4
Japan	6	1.4

1) THE STATE OF THE WORLD' S CHILDREN 2010

2) THE STATE OF THE WORLD' S CHILDREN 2011

3) THE STATE OF THE WORLD' S CHILDREN 2012

表2 母子保健実施コース研修プログラム（平成24年度）

11月	曜日	午前	午後
5日	月	東京での研修	
6日	火		
7日	水	青森着	
8日	木	歓迎会 研修計画説明 特別老人ホーム視察 幼稚園見学	施設視察・講義 あおもり協立病院
9日	金	周産母子センター視察 弘前大学付属病院	母子教育視察 弘前大学大学院保健学研究科
10日	土	自己研修	
11日	日	自己研修	
12日	月	カントリーレポート	施設視察 五所川原市西北中央病院
13日	火	講義 日本の健康保険制度	青森市長表敬訪問
14日	水	講義 母子保健課題への取り組み	講義 日本における食育について
15日	木	施設視察・講義 元気プラザ 青森市の母子保健事業とその実態 4ヶ月健診見学	
16日	金	講義 地域の母子保健活動	家庭訪問
17日	土	自己研修	
18日	日	自己研修	
19日	月	プログラムレポート準備	プログラムレポート報告
20日	火	研修評価会	閉講式 送別会
21日	水	東京へ	
22日	木	帰国	